

総務委員会資料

2 所管事務の調査（報告）

（5）川崎市役所北庁舎の本格活用について

資料 川崎市役所北庁舎の本格活用について

総務企画局

令和8年2月9日

(1) 背景

本庁舎の整備に伴い、北庁舎の本庁機能が移転したため、**新たな活用方法を検討する**必要が生じた。

(2) これまでの経緯

- 平成28年1月
「川崎市本庁舎等建替基本計画」において、本庁舎整備後、本庁機能は本庁舎、南庁舎及び川崎御幸ビルに集約することとした。
- 令和3年8月及び令和5年10月
2回にわたり「庁内利活用希望調査」を実施した。
- 令和6年5月
これまでの**検討経過、今後の検討スケジュール及び検討の方向性（本格活用については令和7年度末を目途に整理すること）等**について、総務委員会に報告した。
- 令和7年8月
「庁内利活用希望調査」の経緯等を踏まえ、必要性和効率性の観点から、次の3件を移転候補とすることについて、総務委員会に報告した。

①休日急患診療所等



②看護大学大学院及び看護大学講義室



③川崎御幸ビル内の本庁機能



2 北庁舎の本格活用について

川崎市役所北庁舎の本格活用について

(1) 施設・機能の組合せの検討

事務室等として利用可能な北庁舎のフロアの床面積を踏まえ、北庁舎への入居が可能な施設・機能の組合せ（3案）について、検討を行った。

A案 ①休日急患診療所等＋②看護大学大学院及び看護大学講義室

(単位：百万円)

項 目	ランニングコスト				イニシャルコスト	実質コスト	備 考
	移転前 (ア)	移転後 (イ)	増減 (ウ)	20年分 (エ＝ウ×20)	オ	エ＋オ	
北庁舎補修費等	0	0	0	0	3,000	3,000	● 劣化部位の修繕、更新、内装改修等
①休日急患診療所等の移転	47	27	▲20	▲400	100	▲300	● 診療所の集約効果による運営費（補助金）の減 ● 不要となる休日急患診療所建物の解体費用 ※敷地を売却した場合は別途345百万円の収入
②看護大学大学院の移転及び看護大学講義室の拡充	58	0	▲58	▲1,160	25	▲1,135	● 川崎フロンティアビルの賃借料の減 ● 移転フロアの原状回復工事費用が必要
③川崎御幸ビル内の本庁機能の移転	160	160	0	0	0	0	● 川崎御幸ビルの賃借料は増減なし
合計	265	187	▲78	▲1,560	3,125	1,565	

B案 ①休日急患診療所等＋③川崎御幸ビル内の本庁機能（2フロア）

(単位：百万円)

項 目	ランニングコスト				イニシャルコスト	実質コスト	備 考
	移転前 (ア)	移転後 (イ)	増減 (ウ)	20年分 (エ＝ウ×20)	オ	エ＋オ	
北庁舎補修費等	0	0	0	0	3,000	3,000	● 劣化部位の修繕、更新、内装改修等
①休日急患診療所等の移転	47	27	▲20	▲400	100	▲300	● 診療所の集約効果による運営費（補助金）の減 ● 不要となる休日急患診療所建物の解体費用 ※敷地を売却した場合は別途345百万円の収入
②看護大学大学院の移転及び看護大学講義室の拡充	58	58	0	0	0	0	● 川崎フロンティアビルの賃借料は増減なし
③川崎御幸ビル内の本庁機能の移転	160	96	▲64	▲1,280	31	▲1,249	● 川崎御幸ビルの賃借料の減 ● 移転フロアの原状回復工事費用が必要
合計	265	181	▲84	▲1,680	3,131	1,451	

2 北庁舎の本格活用について

川崎市役所北庁舎の本格活用について

C 案 ②看護大学大学院及び看護大学講義室＋③川崎御幸ビル内の本庁機能（2フロア）

（単位：百万円）

項 目	ランニングコスト				イニシャルコスト	実質コスト	備 考
	移転前 (ア)	移転後 (イ)	増減 (ウ)	20年分 (エ=ウ×20)	オ	エ+オ	
北庁舎補修費等	0	0	0	0	3,000	3,000	● 劣化部位の修繕、更新、内装改修等
①休日急患診療所等の建替え	0	0	0	0	2,100	2,100	● 川崎・幸休日急患診療所等の建替え費用
②看護大学大学院の移転及び看護大学講義室の拡充	58	0	▲58	▲1,160	25	▲1,135	● 川崎フロンティアビルの賃借料の減 ● 移転フロアの原状回復工事費用が必要
③川崎御幸ビル内の本庁機能の移転	160	96	▲64	▲1,280	31	▲1,249	● 川崎御幸ビルの賃借料の減 ● 移転フロアの原状回復工事費用が必要
合計	218	96	▲122	▲2,440	5,156	2,716	

2 北庁舎の本格活用について

川崎市役所北庁舎の本格活用について

評価区分		A案 (①休日急患診療所等 +②看護大学大学院等)	B案 (①休日急患診療所等 +③川崎御幸ビル2フロア)	C案 (②看護大学大学院等 +③川崎御幸ビル2フロア)
必要性	利便性	○ ・ 休日急患診療所は集約されるものの、駅周辺に一定の駐車スペースを確保できる。	○ ・ 休日急患診療所は集約されるものの、駅周辺に一定の駐車スペースを確保できる。	○ ・ 駅からの近接性はほぼ変わらない。
	地震等災害時の対応	◎ ・ 医師会及び看護大学大学院の人的資源と連携した医療救護活動を展開できる可能性がある。	○ ・ 医師会と連携した医療救護活動を展開できる可能性がある。	○ ・ 看護大学大学院の人的資源と連携した医療救護活動を展開できる可能性がある。
	複合化による相乗効果	◎ ・ 医師会、看護大学大学院・看護大学、看護協会等が連携した講義や実習等を通じ、高度人材養成や関係者間のネットワーク形成等が期待できる。	△ ・ 現時点において、相乗効果は期待できない。	△ ・ 現時点において、相乗効果は期待できない。
	事務負担	△ ・ 休日や学校運営を含めた庁舎管理体制を新たに構築する必要がある。 ・ 休日急患診療所等の貸付けの事務手続や平日日中の会議室の使用について整理する必要がある。	△ ・ 休日を含めた庁舎管理体制を新たに構築する必要がある。 ・ 休日急患診療所等の貸付けの事務手続や平日日中の会議室の使用について整理する必要がある。	○ ・ 学校運営を含めた庁舎管理体制を新たに構築する必要がある。
効率性	施設運営の効率化	◎ ・ 2つの休日急患診療所の集約により、運営の効率化が図れる。 ・ 看護大学の狭あいな状況を解消し、運営の効率化が図れる。	○ ・ 2つの休日急患診療所の集約により、運営の効率化が図れる。	○ ・ 看護大学の狭あいな状況を解消し、運営の効率化が図れる。
	フロアスペース等の最適化	◎ ・ 2つの休日急患診療所の集約により、規模の最適化が図れる。 ・ 看護大学大学院の将来的な拡張への対応が可能となる。	○ ・ 2つの休日急患診療所の集約により、規模の最適化が図れる。	○ ・ 看護大学大学院の将来的な拡張への対応が可能となる。
	費用 (20年間)	◎ ・ イニシャルコスト 3,125百万円 ・ ランニングコスト ▲1,560百万円 ・ 実質コスト 1,565百万円	◎ ・ イニシャルコスト 3,131百万円 ・ ランニングコスト ▲1,680百万円 ・ 実質コスト 1,451百万円	△ ・ イニシャルコスト 5,156百万円 ・ ランニングコスト ▲2,440百万円 ・ 実質コスト 2,716百万円
評価		◎	○	△

2 北庁舎の本格活用について

川崎市役所北庁舎の本格活用について

(2) まとめ

- ✓ 北庁舎の本格活用に当たっては、必要性和効率性の観点から比較し、施設集約化等に伴う運営の効率化が図れること、医師会及び看護大学大学院と連携した医療救護活動を展開できる可能性が見込まれ、機能面の優位性があることなどを踏まえ、「**①休日急患診療所等＋②看護大学大学院及び看護大学講義室**」を最適な組合せとして、選択することが適当であると判断

【移転後のフロア別の用途】

フロア	用途
5 階	体育室
3 階、4 階	看護大学大学院及び看護大学講義室
1 階、2 階	休日急患診療所等
地下	会議室、倉庫等

※ 5 階体育室等の事務室としての利用は、構造上の課題等があるため、スポーツ施設として、民間活用等に向けて引き続き検討を実施

(3) 今後のスケジュール

